

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 5 月 16 日 (2013.5.16)

【公開番号】特開 2011-217778 (P2011-217778A)

【公開日】平成 23 年 11 月 4 日 (2011.11.4)

【年通号数】公開・登録公報 2011-044

【出願番号】特願 2010-86635 (P2010-86635)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

G 0 1 R 33/385 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 3 4 0

G 0 1 N 24/06 5 1 0 Y

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 4 月 3 日 (2013.4.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被検体が配置される空間に静磁場を発生するために、該空間を間に挟んで相対向して配置された一対の静磁場発生手段と、

前記一対の静磁場発生手段の前記空間側に配置され、該空間に傾斜磁場を発生する傾斜磁場発生手段と、

第 1 の部分と、該第 1 の部分より剛性の高い第 2 の部分とを有して成り、前記傾斜磁場発生手段へ電流を供給するケーブルと、

を備え、

前記第 2 の部分が、前記第 1 の部分より前記空間に近い位置に配置されていることを特徴とする磁気共鳴イメージング装置。

【請求項 2】

前記第 2 の部分は、前記一対の静磁場発生手段を接続する部分に配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の磁気共鳴イメージング装置。

【請求項 3】

前記第 2 の部分は、複数本で構成され、その少なくとも一つは樹脂で覆われていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の磁気共鳴イメージング装置。

【請求項 4】

前記樹脂で覆われた第 2 の部分は、金属剛体を介して前記静磁場発生手段に据え付けられることを特徴とする請求項 3 に記載の磁気共鳴イメージング装置。

【請求項 5】

前記金属剛体と前記静磁場発生手段との間に間隔が空けられていることを特徴とする請求項 4 に記載の磁気共鳴イメージング装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

上記の課題を解決するために、本発明のMRI装置は、被検体が配置される空間に静磁場を発生するために、該空間を間に挟んで相対向して配置された一对の静磁場発生手段と、前記一对の静磁場発生手段の前記空間側に配置され、該空間に傾斜磁場を発生する傾斜磁場発生手段と、第1の部分と、該第1の部分より剛性の高い第2の部分とを有して成り、前記傾斜磁場発生手段へ電流を供給するケーブルと、を備え、前記第2の部分が、前記第1の部分より前記空間に近い位置に配置されていることを特徴とする。

【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 2 】

また、前記第2の部分は、前記相対向して配置された静磁場発生手段を接続する部分に配置されている。

また、前記第2の部分は、複数本あり、樹脂で覆われてものがある。

また、前記樹脂で覆われた第2の部分は、金属剛体を介して前記静磁場発生手段に据え付けられる。

また、前記金属剛体と前記静磁場発生手段の間に、間隔が空けられている。